名古屋市社会科同好会

# 同好会ひろば

第２８３号
R2. 10. 12
No.３

## 部会活動報告～人間の生き方を問い続ける社会科学習を目指して～

小学校部会　７月２７日(月)於　ウィルあいち　　９月７日(月)　オンライン開催
中学校部会　７月２９日(水)於　中小企業振興会館

小学校部会及び中学校部会では、全中社研名古屋大会を見据え、「多様化する社会の中で自分の考えをもち、他者の考え方を認めることを通じて、共に『よりよい社会』をつくろうと協力することができる子ども」の姿を目指し、「人間の生き方を問い続ける社会科学習」の在り方を追究しています。

今年度、小学校部会で検討している単元計画は以下のとおりです。

**地理的環境と人々の生活分野　第4学年　単元名「豊かな自然を生かすまち・南知多町」(7時間完了)**

自然を生かしたまちづくりに取り組む一方で、人口や観光客の減少という課題を抱える南知多町を教材化し、今とこれからの南知多町のまちづくりについて調べることで、よりよいまちづくりを考えようとする子どもの姿を目指します。

**歴史と人々の生活分野　第6学年　単元名「戦国の世から天下統一へ(6時間完了)」**

不安定な戦国の世を統一した織田信長と豊臣秀吉を教材化し、子どもが織田や豊臣になりきって現代に生きる私たちに向けたメッセージを考えることで、歴史から学んだことを現代社会に生かすことができる子どもの姿を目指します。

**現代社会の仕組みや働きと人々の生活分野　第5学年　単元名「情報を生かす産業」(7時間完了)**

情報化によって大きく発展を遂げた回転寿司店やコンビニを教材化し、今後の産業発展の在り方を考えることで、情報化社会に対応することができる子どもの姿を目指します。

また、中学校部会で検討している単元計画は以下のとおりです。

**地理的分野　第2学年　単元名「関東地方」(8時間完了)**

多様な考え方、価値観が存在する東京への一極集中を教材化し、関東地方全体が活性化する「よりよい未来」について考えることで、地理的事象と自分とのつながりをとらえ、他者と関わりながら、共に地域の未来を考えることができる生徒の姿を目指します。

**歴史的分野　第1学年　単元名「世界の動きと武家政治の始まり」(5時間完了)**

様々な立場の価値観が存在する元寇における北条時宗の判断を教材化し、北条時宗の生き様や元寇が現代に与えた影響を考えることで、よりよい社会の実現に向けて、自分の生き方を問い続ける生徒の姿を目指します。

**公民的分野　第3学年　単元名「国の政治の仕組み」(7時間完了)**

様々な立場の価値観が存在する「大きな政府」と「小さな政府」を教材化し、自分たちの教育を守るために「大きな政府」か「小さい政府」かの選択について考えることで、よりよい社会の在り方を他者とともに考える生徒の姿を目指します。

**【第２８３号　紙面】**

部会活動報告～人間の生き方を問い続ける社会科学習を目指して～・・・・・(ｐ１)
訪問インタビュー　笠島　修先生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(ｐ２・３)
ステップアップ研修について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(ｐ４・５)
授業づくり講座について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(ｐ６)
今後の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(ｐ６)

訪問インタビュー

# 笠島 修 先生

昭和55年、南押切小学校に着任。以降、香流小、八幡中、日比野中、天白中を経て、志段味中校長に。その後、小坂小、津賀田中校長を歴任されました。

現在は、名古屋経済大学高蔵中学校・高等学校にてご活躍されています。

名古屋市の社会科教育を発展させるため、同好会事務局員、名古屋市社会科研究会役員、同好会会長などを歴任された笠島修先生。先生の豊富なご経験を基に、今後の同好会活動を充実させるための貴重なお話を伺いました。

## 名古屋経済大学高蔵中学校・高等学校での仕事について

私の最も大事な仕事は、高蔵中学校・高等学校の生徒募集です。高蔵高等学校の良さをPRするために、1年に2回、多くの中学校を訪問して進路指導主事の先生と面接をします。その中で、本校の建学の精神や施設、行事の豊かさ等をお伝えしています。秋の訪問では推薦、一般入試のおおよその学力レベルなどお伝えしています。その他にも、上級学校訪問で、本校に見学に来る中学生を案内したり、出前授業というスタイルで依頼された中学校や塾を訪問して、高蔵高等学校をプレゼンしたりする仕事も引き受けています。

また、市内や名古屋市近郊の塾を訪問して、小学校6年生児童の本中学受験の情報を提供したり、資料を持参したりして、塾長先生方と懇談を進めます。

他には、各種イベント、例えば高蔵中学校・高等学校の見学会や、個別相談会の準備、運営をしたり、たくさんの中学生や保護者、他の高校生を招いての文化祭（扇祭）を支えたりして、季節ごとの行事を応援しています。また、私学協会恒例イベントの「私立中学校フェア」や「私学展」では、県下の多くの児童生徒とその保護者と面談し、高蔵中学校・高等学校への入学案内に努めています。

## 人間の生き方を問い続ける「始めの一歩」

私は平成5年に同好会事務局に加えていただきました。いくつかある思い出の中で、一番記憶に残っているのは、平成7年の全中社研。この全中社研名古屋大会では、準備、運営の一端に関わらせていただきました。その時の先輩の先生方や授業者の方々、それを支えるサポーターの先生方の献身的なご支援は、今で

も強く思い出に残っているものです。全中社研では、何度も準備と失敗を重ね、公開する授業では、「携帯電話を使って、講師の先生と授業者のやり取りを教室で生徒が視聴する」という授業を展開しました。ちょうど今から四半世紀前、まだまだ携帯電話の普及が進んでいない、そのような頃の実践でした。また、残念ながら実現はしませんでしたが、中学校の授業会場と学区の小学校の教室をテレビ会議システムでつないで双方向の意見のやり取りを実現しようと、試行錯誤もしました。今考えると、今日の新型コロナウィルス感染症の影響で、盛んに行われるようになったリモート授業や動画配信授業など、ICTを先取りした試みであったと懐かしく振り返っています。そして、平成28年の全小社研では、トヨタの水素エネルギー自動車「MIRAI」を借り受けて、講師の先生に説明を伺う、そんな先進的な授業も公開することができました。

全中社研、全小社研と関わらせていただいて感じた名古屋大会の特徴。それは、小中の仲間が共に考え、テーマに向かって、理解を深めていくという小中連携の姿だと思います。まさに、小中一貫の『9年生』として、積み重ねられた児童生徒の姿が、一つの方向に収斂した姿です。それぞれの学年の子どもが自分の頭で一生懸命考えた知恵・工夫を、仲間と共に、より高め合う姿。これも人間の生き方を問い続ける「始めの一歩」となると思います。

**繰り返すだけでは足りない、自分の脳で考えよ**

『白洲次郎』という人物を知っているでしょうか。次郎をよく知っている人、そうではない人がおられると思いますが、ぜひ、様々なメディアで彼の生き様を知ってほしいと思います。次代を担う若い同好会員の皆さんにとって、彼を知ることは、生きるヒントや勇気が湧いてくるきっかけになるのではないでしょうか。ここでは、1つだけ彼の話を紹介したいと思います。

白洲次郎は、1919年にケンブリッジ大学クレア・カレッジに留学をしています。このとき、自信満々で教授にレポートを提出した際に、「残念だが評価に値しない。なぜなら、これは私が教えたことを繰り返しているだけだ。私が求めているのは、君のその、ちっぽけな脳みそで考えた答えだ。」と言われ衝撃を受けます。そして、次郎は「これこそ、俺が求めていた勉学だ。」と感銘を受けます。先生方の目の前にいる児童生徒は、教科書や資料に書いてあることを、そのまま繰り返しているだけになってはいないでしょうか。次郎の言葉を借りるなら、「繰り返すだけでは足りない、自分の脳で考えよ。」このようなことの大切さに、今一度立ち返るべきだと思います。

さて、皆さんがこの原稿を目にされている今日、名古屋市の小中学校はコロナ禍もなく健やかに学びが進んでいるのでしょうか。「ピンチをチャンスに!」年度初めの2か月弱の学習の遅れを実りの秋の今、少しずつでも取り戻し、子どもたちは、新しい生活様式にスムーズに適応しながら学び続けていることを期待しています。こうした逆境にもめげず、教師や友と協力し豊かな生活を保っていることも、私達の目指す「人間の生き方を問い続ける」につながる「始めの一歩」となる学びであると思っています。

# ステップアップ研修について

今年度も、教職経験7年目以上の会員を対象に、指導体験記録や研究員応募論文の執筆を通して、個人の実践研究の推進と授業力の向上を図るステップアップ研修を行っています。今年度は、指導者と受講者が共に学び合う場として、ステップアップ研修全体会を9月15日（火）に開催予定でしたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、開催を見送りました。

そのため今回は、ステップアップ研修全体会において、教育センター指導主事伊藤禎康先生よりご講演いただく予定であった内容について紹介します。

**【若手に対するよりよい指導者を目指して】**

指導のゴールは、「研究の楽しさを実感させる」こと「論理的な文章を書けるようにさせる」ことの二つです。

授業づくりに関しては、素材研究から実践、評価までを一体として捉えさせることが大切です。そして、文章については、地道に指導するしかありません。指導者もよく勉強しておかないと、誤りに気付くことができません。

また、指導者として「質問する」ことと「見る」ことが大切です。質問とは、「問い質す」とあるので、とにかく実践者に質問し、本質が明らかになるようにしてほしいと思います。次に、「見る」ことです。ただ、実際の授業を「見る」ことはなかなか難しいので、授業の録画や実際の板書の写真など、とにかく何でもよいので、実際の授業が想定されるものを見てほしいです。例えば、右の二つの板書例ですが、どのような学習を意図した板書なのか分かりますか？この他にも、板書の形態例は様々ありますが、授業の流れを具体的にイメージし、子どもの発言を予想できれば、板書を見るだけでも授業者の意図が分かるはずだと思います。

**研究の楽しさを実感させる**

➢ 講じた手立てで子どもたちが伸びること

・素材研究ができる
　→取り上げるものを理解することができる
・教材化できる
　→単元との関わりを理解することができる
・指導法が分かる
　→何をどのように教え、考えさせるのかができる
・評価できる

**論理的な文章を書けるようにさせる**

➢ 書くことは、読むこと、話すこと以上に難しい

・実践の視点は明確か
・指導方法や手立てに工夫が見られるか
・論旨が明確か
・子どもの成長の変容や姿が表れているか
・用語、用事等の表記に誤りはないか
・主語は明確で、述語と対応しているか
・図表や写真等が見やすく効果的に活用されているか

**質問する**

「質問」とは…　問い質す（問いただす）

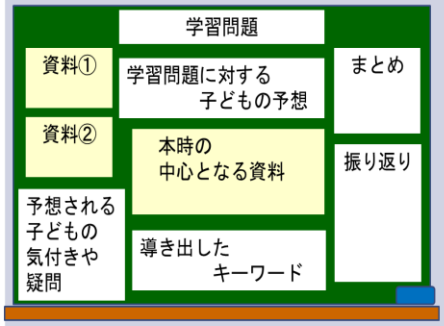
・テーマ
　→課題性
　→社会科としてふさわしいか？
・子どもの姿
　→資質・能力との関わり
・手立て
　→課題を解決するものか？
　→工夫は何か？
・考察、分析
　→評価基準は？
　　数より内容で
　→個と全体の関係

**見る**

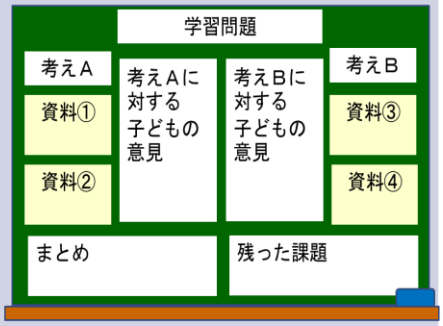
授業を見る

・録画したビデオ
・板書の写真
・子どもが書いたプリントのコピー

**理解を意図した板書例**

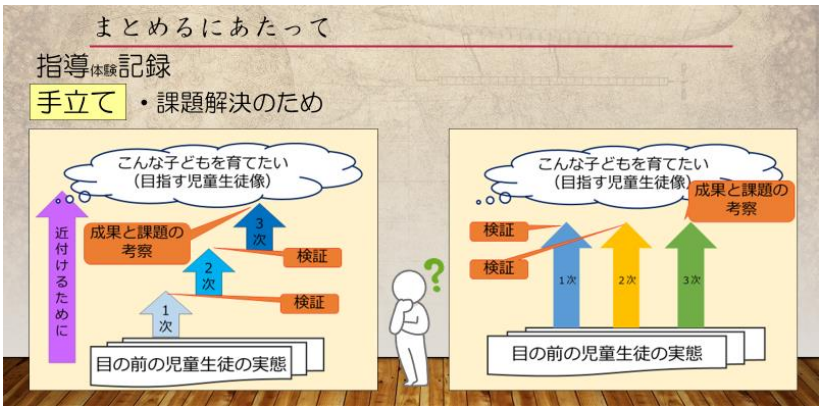



**判断を意図した板書例**

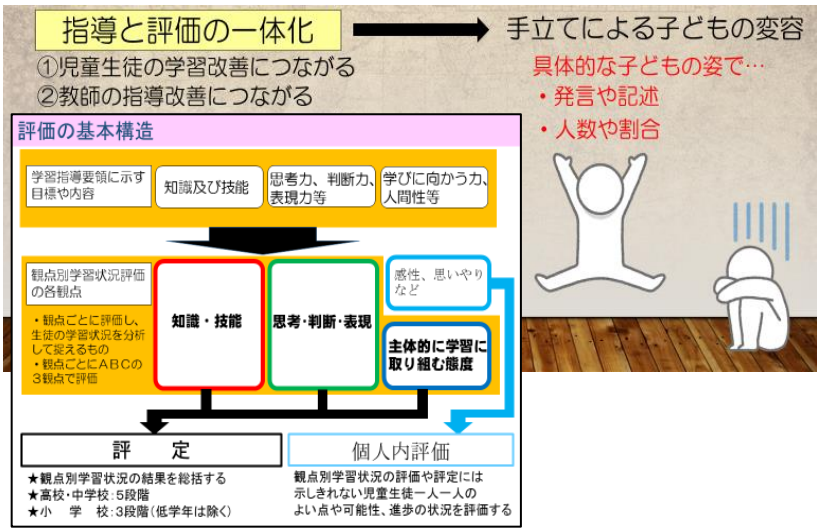


**【ステップアップ研修受講者のみなさんへ】**

指導体験記録をまとめる理由は、様々あると思います。私は、「まとめる」ことで「自分の実践を客観的に振り返る」ことができるようになりました。第3期名古屋市教育振興基本計画にも、指導体験記録のことが記載されています。つまり、名古屋市としても「実践を集約し、教員の指導力向上を図る」ことが事業としてうたわれています。そのため、「指導体験記録として応募する」こと自体が価値ある取組であることを理解してほしいです。

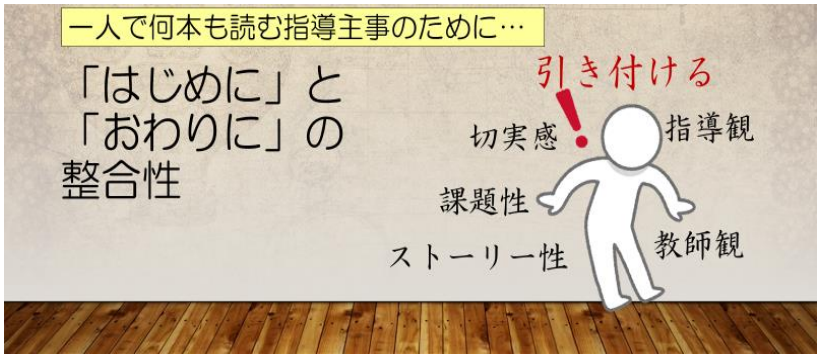



さて、実践を行うには、「手立て」が必要になります。ここでは、右のような二つの例をあげましたが、この違いは分かりますか？同じところはどこか分かりますか？あなたが実践しようとしていることは、どちらですか？まずは、御自身で考えてみてください。どうしても、分からないときは、先輩に聞いてみてください。




また、「指導」に着目すると、当然「評価」をしなければなりません。つまり、手立てによって、子どもがどのように変容したのか？それをどのような姿で評価するのか？発言や記述内容で評価するのなら、具体的な内容を示す必要があります。また、人数や割合はどのようになったのか？具体的な姿で、客観的に評価することが大切です。そして、できた子どもは、なぜできたのか？逆に、できなかった子どもは、なぜできなかったのか？これらの考察を基に、次の実践に向けて、何を改善していくのかが鍵になります。

一方で、「体験」に着目すると、「指導室指導主事が応募されたたくさんの体験記録を読む」ということを想定して、配慮すること大切です。そのために、まずは「はじめにとおわりの整合性」です。体験記録をまとめていくうちに、論旨が変わっていくことがよくあります。必ず、一貫性をもってまとめられているか確認してください。あとは、右の「引き付ける」を参考にしてください。読み手を引き付ける豊かな文章を目指しましょう。




※ 伊藤禎康先生のご講演資料は、名古屋市社会科同好会ホームページに掲載しております。

# 授業づくり講座について

今年度も、「すぐに使える」「実際の授業をイメージできる」という点に重きを置き、「授業づくり講座」を開催します。第２回は、９月１５日（火）に、開催予定でしたが、新型コロナウィルス感染症の拡大防止の観点から、開催を見送りました。そのため今回は、第２回の授業づくり講座において、講師の方から説明していただく予定であった社会科の授業づくりについて紹介します。

【小学校】講師：滝川小学校　大賀 信明　先生

☆「わたしたちのきょうど」を活用した授業づくりのポイントとは!?

①　朱書きを読み、授業のゴールを明確にする！

教師用にある朱書きには、授業づくりのヒントがたくさんあります。特に、朱書きにある「ねらい」と「評価について」を読み、授業のゴール（子どもがどのような記述や発言をすればよいか）を明確にすることが大切です。

②　授業のゴールに到達するための、問い掛けを考える！

授業のゴールを明確にしたら、次に捉えさせたいことを明確にします。3年生の学習を例に挙げると、産地を調べただけでは、全員がねらいとするような記述や発言をしないと思います。そこで、活動をする中で、問い掛け（補助の発問）を考える必要があります。

【中学校】講師：宮中学校　牛島 康太郎　先生

☆子どもと一緒に授業づくり～変化を起こす学習活動で子どもの心をつかむ

〇板書力をつけましょう

★分かりやすい板書
①学習内容を明確に書く→主要な発問を短く書き、色チョークで囲む。
②資料やカードなどを貼る→拡大したものに、書きこんだり印をつけたりする。
③チョークの役割→３色(白・赤・黄)程度にする。

★深まっていく板書
①生徒の思考の流れ
思考の流れに基づき、左から右に流れていく。次の流れを矢印などでつなぐ。
②意見の対立、ずれを取り上げる
生徒の意見が対立、または同じ意見でも異なる視点なら取り上げ、焦点化していく。色チョークで囲んだり、矢印で対立やずれを明確にしたりし思考を深める。
③生徒が書く
黒板に文や図で説明させる。
④囲み、傍線、矢印の使用
大事な事や知識の定着を図りたい内容は、色チョークで引いたり囲んだりする。囲みも、四角、楕円、突起のあるものなど使い分け、役割を決める。同じ考えを囲むともに、他の考えと対立したり発展させたりするときは矢印を使用する。

※　授業づくり講座の詳細は、名古屋市社会科同好会ホームページに掲載しております。

## ～今後の予定～

**11月24日（火）　18:15～　名古屋市学校教育研究会社会科部会講演会（中止）**
**社会科同好会懇親会並びに全中社研実行委員会全体会（中止）**

**11月27日（金）　19:00～　中学校部会（未定）**

**11月30日（月）　19:00～　小学校部会（未定）**